

自由集会 3 (CW1)

より充実した研究を目指して—若手霊長類研究者へのエール

開催日時：2015年7月18日（土）13:00-15:30

会場：ホール C (国際交流ホール III)

研究を始めるにあたり大事なことは、どういったフィールドでどのような霊長類種を研究するかを決めることである。既に多くの基礎データが蓄積された長期調査地、霊長類種の研究は、研究テーマを速やかに開始できるのが長所である一方、他の研究者とのテーマ重複を避けるために限られたデータしか集められないという短所もあるだろう。しかし、新たな調査地の開拓や、まだ研究が進んでいない霊長類種の研究を開始するには、並々ならぬ困難もありそうだ。そこで、新たなフィールド開拓、新しい霊長類種の研究に着手し、今なお第一線で研究を続けている研究者に、その魅力をについて語ってもらう。

調査地を開拓し、新たな霊長類種の追跡が軌道に乗っても、次に待ち受けるのはどういったデータを、どのように集めるのかという問題である。正しくデータを集めなくては、せっかくの苦労が報われないこともあるだろう。そこで、一昨年「野生動物の行動観察法」を出版した研究者に、霊長類の行動データを集める際に特に注意する点について語ってもらう。

行動データが集まり、分析が終わると論文執筆作業が待ち受けている。昨今のポスドク就職難を考えると、まとめたデータを素早く論文として出版していくことが重要である。また野外で研究をする研究者にとっては、この室内での執筆作業はなるべく早く終わらせ、次のフィールド調査に出かけたいものである。そこで、効率の良い論文の書き方について語ってもらう。

自身の研究を更に発展させるために極めて重要なことは、いかに研究費を獲得していくかであろう。そのためには、自分の調査対象、自分の調査地の魅力を客観的に評価した上で、今後の研究戦略を練り上げていく構想力が必要となる。第一線で途切れることなく資金を獲得し、新たなプロジェクトを次々と立ち上げている研究者に、資金獲得に欠かすことのできない申請書をどう書いてきたか、実例をもとに語ってもらう。

予定プログラム

1. 金森朝子（京大・霊長研）「新たなフィールドの開拓—野生オランウータンの調査地」
2. 本郷峻（京大・人類進化）「新たな霊長類種の研究開拓—マンドリル研究」
3. 井上英治（京大・人類進化）「その手法はだいじょうぶ？—霊長類の行動データ収集」
4. 松田一希（京大・霊長研）「どうやって論文をまとめるか—効率の良い書き方」
5. 半谷吾郎（京大・霊長研）「どうやって研究資金を獲得するか—研究戦略の練り上げ」

主催：

企画責任者：松田一希（京大・霊長研）

連絡先：ikki.matsuda@gmail.com / 0568-63-0271